

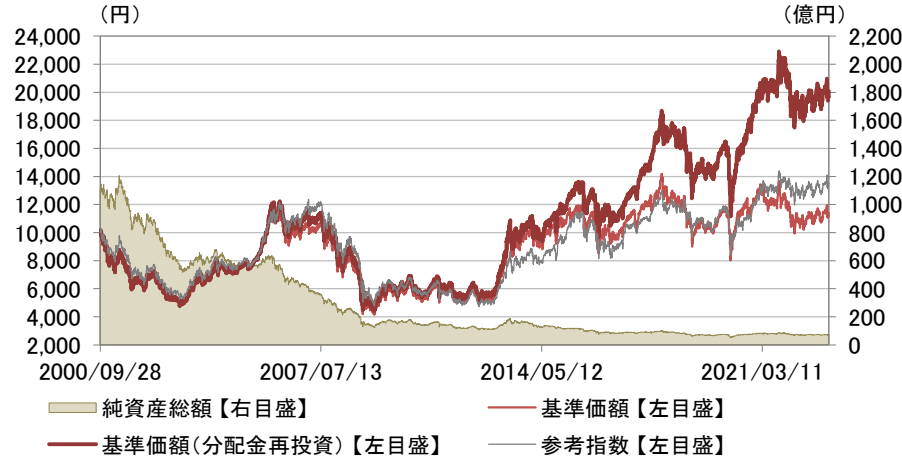
ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

月次レポート

2023年
03月31日現在

追加型投信／国内／株式

■基準価額および純資産総額の推移



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
- ・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ・参考指数は、東証株価指数(TOPIX)です。
- ・参考指数は、当ファンドのベンチマークではありません。
- ・詳しくは、後記の「本資料で使用している指数について」をご覧ください。
- ・参考指数は、設定日翌営業日を10,000として指数化しています。

■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	-0.1%	5.1%	5.5%	0.4%	54.2%	100.9%
参考指数	-0.5%	4.6%	6.1%	0.8%	38.2%	34.8%

- ・実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。
- ・また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
- ・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。
- ・分配金実績がある場合は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■投資対象ファンドの基準価額

ファンド名	基準価額 (前日)
三菱UFJ国際 日本株・スター・ファンド(適格機関投資家用)	23,023 円
フィデリティ・日本株ファンド(適格機関投資家用)	25,003 円
GIMザ・ジャパン(適格機関投資家用)	47,031 円
三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド(適格機関投資家用)	21,282 円
シュローダー日本ファンド(適格機関投資家専用)	10,181 円

・各ファンドの基準価額は「ファンド・オブ・オールスター・ファンズ」の基準価額算出日(作成基準日)の前日(前営業日)の基準価額を表示しております。

■投資対象ファンドへの資産配分

	比率
三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド(適格機関投資家用)	26.4%
GIMザ・ジャパン(適格機関投資家用)	20.9%
フィデリティ・日本株ファンド(適格機関投資家用)	18.7%
三菱UFJ国際 日本株・スター・ファンド(適格機関投資家用)	17.1%
シュローダー日本ファンド(適格機関投資家専用)	15.2%
合計	98.3%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

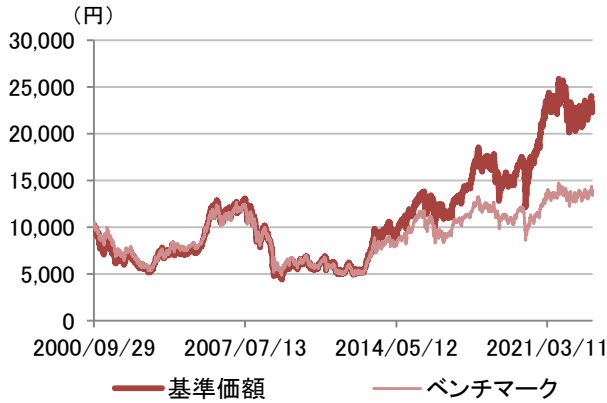
月次レポート

追加型投信／国内／株式

2023年
03月31日現在

■投資対象ファンドの運用状況

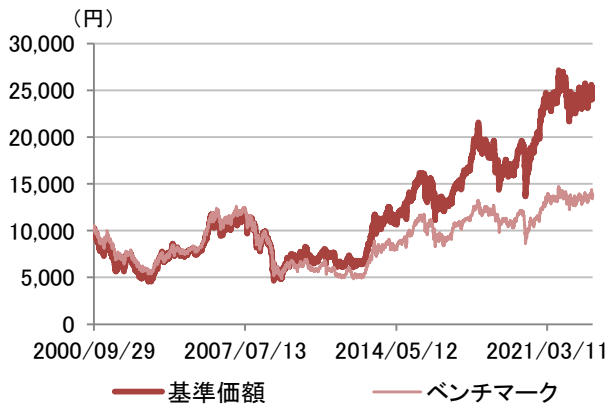
三菱UFJ国際 日本株・スター・ファンド(適格機関投資家用)



■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.3%	7.0%	12.6%	0.5%	64.9%	132.6%
ベンチマーク	0.5%	5.9%	9.1%	2.9%	42.8%	39.2%

フィデリティ・日本株ファンド(適格機関投資家用)



■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	3.1%	7.9%	9.9%	3.1%	60.1%	152.9%
ベンチマーク	0.5%	5.9%	9.1%	2.9%	42.8%	39.2%

GIMザ・ジャパン(適格機関投資家用)



■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	-2.1%	5.5%	10.6%	5.6%	76.9%	374.1%
ベンチマーク	1.7%	7.2%	10.7%	5.8%	53.4%	214.0%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

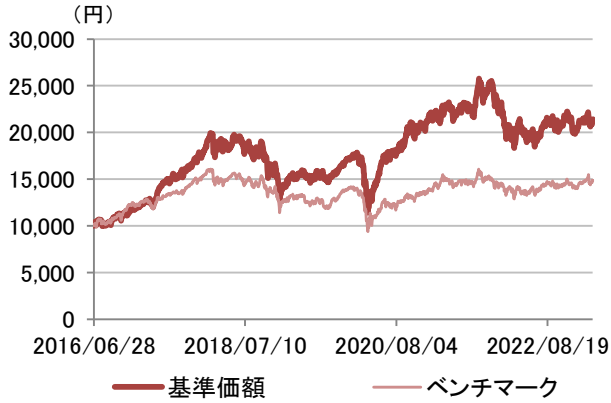
月次レポート

2023年
03月31日現在

追加型投信／国内／株式

■投資対象ファンドの運用状況

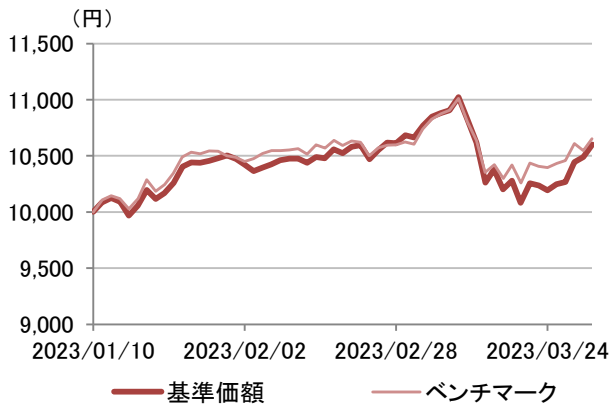
三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド(適格機関投資家用)



■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	0.4%	5.5%	5.6%	2.2%	57.2%	114.0%
ベンチマーク	-0.1%	4.3%	6.0%	7.1%	36.1%	48.8%

シュローダー日本ファンド(適格機関投資家専用)



■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	-0.1%	—	—	—	—	6.0%
ベンチマーク	0.5%	—	—	—	—	6.5%

・ベンチマークは、「三菱UFJ国際 日本株・スター・ファンド」、「フィデリティ・日本株ファンド」は東証株価指数(TOPIX)、「GIMザ・ジャパン」はTOPIX(東証株価指数)配当込み、「三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド」はRUSSELL/NOMURA Small Capインデックス、「シュローダー日本ファンド」はTOPIX(東証株価指数)です。

・グラフは、投資対象ファンドの設定日(2000年9月29日)前営業日(「GIMザ・ジャパン」は設定日(2010年6月29日)、「三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド」は設定日(2016年6月28日)、「シュローダー日本ファンド」は投資開始日(2023年1月10日))を10,000として指数化しております。

・設定来のファンドの騰落率は10,000(「GIMザ・ジャパン」、「三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド」は設定日、「シュローダー日本ファンド」は投資開始日(2023年1月10日))を起点として計算しています。ベンチマークの設定来騰落率は、設定日前営業日(「GIMザ・ジャパン」、「三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド」は設定日、「シュローダー日本ファンド」は投資開始日)の指数を起点として計算しています。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

月次レポート

2023年
03月31日現在

追加型投信／国内／株式

【参考】個別ファンドのポートフォリオの状況

(データは 2023年3月31日現在) ※データは3ヵ月毎に更新いたします。

三菱UFJ国際 日本株・スター・ファンド(適格機関投資家用)

■資産構成

	比率
実質国内株式	96.4%
内 現物	96.4%
東証プライム	94.0%
東証スタンダード	0.8%
東証グロース	1.6%
その他市場	0.0%
内 先物	0.0%
コールローン他	3.6%

■組入上位5業種

業種	比率
1 電気機器	23.8%
2 情報・通信業	13.5%
3 化学	9.9%
4 小売業	8.1%
5 医薬品	6.8%
合計	62.0%

・比率は現物株式評価額に対する割合です。

■組入上位10銘柄

組入銘柄数: 76銘柄

東証コード	銘柄	比率
1 4568	第一三共	4.7%
2 6758	ソニーグループ	4.6%
3 8031	三井物産	4.3%
4 8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	3.5%
5 8035	東京エレクトロン	3.1%
6 6861	キーエンス	2.6%
7 9983	ファーストリテイリング	2.6%
8 4443	Sansan	2.4%
9 6501	日立製作所	2.4%
10 8316	三井住友フィナンシャルグループ	2.2%
	合計	32.4%

フィデリティ・日本株ファンド(適格機関投資家用)

■資産構成

	比率
実質国内株式	98.2%
内 現物	98.2%
東証プライム	97.2%
東証スタンダード	0.0%
東証グロース	1.0%
その他市場	0.0%
内 先物	0.0%
コールローン他	1.8%

■組入上位5業種

業種	比率
1 電気機器	23.4%
2 小売業	8.4%
3 卸売業	8.3%
4 精密機器	8.2%
5 情報・通信業	8.1%
合計	56.5%

・比率は現物株式評価額に対する割合です。

■組入上位10銘柄

組入銘柄数: 90銘柄

東証コード	銘柄	比率
1 6861	キーエンス	5.3%
2 8001	伊藤忠商事	4.0%
3 8766	東京海上ホールディングス	3.4%
4 8035	東京エレクトロン	3.2%
5 7733	オリンパス	3.2%
6 6758	ソニーグループ	3.1%
7 6501	日立製作所	3.0%
8 9962	ミスミグループ本社	2.8%
9 6902	デンソー	2.5%
10 4063	信越化学工業	2.2%
	合計	32.8%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。・業種は、東証33業種で分類しています。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

月次レポート

2023年
03月31日現在

追加型投信／国内／株式

【参考】個別ファンドのポートフォリオの状況

(データは 2023年3月31日現在) ※データは3ヵ月毎に更新いたします。

GIMザ・ジャパン(適格機関投資家用)

■資産構成

	比率
実質国内株式	96.2%
内 現物	96.2%
東証プライム	90.2%
東証スタンダード	1.3%
東証グロース	4.6%
その他市場	0.0%
内 先物	0.0%
コールローン他	3.8%

■組入上位5業種

業種	比率
1 機械	18.9%
2 情報・通信業	16.7%
3 電気機器	12.4%
4 銀行業	8.6%
5 建設業	7.2%
合計	63.7%

・比率は現物株式評価額に対する割合です。

■組入上位10銘柄

組入銘柄数: 60銘柄

東証コード	銘柄	比率
1 1963	日揮ホールディングス	4.5%
2 8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	4.1%
3 8308	りそなホールディングス	4.1%
4 7013	IHI	4.0%
5 6758	ソニーグループ	3.7%
6 6361	荏原製作所	3.6%
7 6460	セガサミーホールディングス	2.8%
8 6367	ダイキン工業	2.6%
9 3697	SHIFT	2.4%
10 7004	日立造船	2.4%
	合計	34.3%

三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド(適格機関投資家用)

■資産構成

	比率
実質国内株式	96.2%
内 現物	96.2%
東証プライム	82.5%
東証スタンダード	5.2%
東証グロース	8.5%
その他市場	0.0%
内 先物	0.0%
コールローン他	3.8%

■組入上位5業種

業種	比率
1 情報・通信業	15.9%
2 サービス業	15.8%
3 小売業	8.5%
4 機械	8.1%
5 電気機器	6.9%
合計	55.3%

・比率は現物株式評価額に対する割合です。

■組入上位10銘柄

組入銘柄数: 81銘柄

東証コード	銘柄	比率
1 6532	ベイカレント・コンサルティング	2.5%
2 4203	住友ベークライト	2.5%
3 6055	ジャパンマテリアル	2.4%
4 7839	SHOEI	2.4%
5 7004	日立造船	2.3%
6 2685	アダストリア	2.3%
7 7732	トプコン	2.3%
8 3774	インターネットイニシアティブ	2.2%
9 4443	Sansan	2.2%
10 4848	フルキャストホールディングス	2.1%
	合計	23.2%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。・業種は、東証33業種で分類しています。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

月次レポート

2023年
03月31日現在

追加型投信／国内／株式

【参考】個別ファンドのポートフォリオの状況

(データは 2023年3月31日現在) ※データは3ヵ月毎に更新いたします。

シュロダー日本ファンド(適格機関投資家専用)

■資産構成

	比率
実質国内株式	99.0%
内 現物	98.2%
東証プライム	87.9%
東証スタンダード	9.9%
東証グロース	0.0%
その他市場	0.4%
内 先物	0.8%
コールローン他	1.0%

■組入上位5業種

業種	比率
1 情報・通信業	9.3%
2 輸送用機器	9.0%
3 電気機器	8.7%
4 化学	8.0%
5 卸売業	7.8%
合計	43.0%

・比率は現物株式評価額に対する割合です。

■組入上位10銘柄

組入銘柄数: 103銘柄

東証コード	銘柄	比率
1 8001	伊藤忠商事	3.3%
2 8316	三井住友フィナンシャルグループ	3.2%
3 8795	T&Dホールディングス	3.0%
4 6762	TDK	2.5%
5 4966	上村工業	2.5%
6 8591	オリックス	2.4%
7 8766	東京海上ホールディングス	2.2%
8 6201	豊田自動織機	2.1%
9 6273	SMC	2.1%
10 4503	アステラス製薬	2.1%
	合計	25.3%

※各社からのポートフォリオ情報を三菱UFJ国際投信で集計しております。なお各社データは四捨五入されたものを集計しておりますので、完全に正確な数値ではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。・業種は、東証33業種で分類しています。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

月次レポート

追加型投信／国内／株式

2023年
03月31日現在

■運用担当者コメント

【市況動向】

日本の株式市況は、欧米の金融不安を受けて下落する局面もあったものの、米国の利上げ懸念後退などから、月の後半は反発しました。

【ファンド・オブ・オールスター・ファンズの状況（分配金実績がある場合、基準価額の騰落は分配金再投資ベース）】

当ファンドの3月の基準価額応当期間（2月27日～3月30日）では東証株価指数（TOPIX）が0.5%下落するなか、ファンド・オブ・オールスター・ファンズは0.1%の下落（2月28日～3月31日）となりました。

各社の相対パフォーマンスでは、フィデリティ・日本株ファンド、三菱UFJ国際 日本株・スター・ファンドが相対的に良好なパフォーマンスとなりました。

3月末時点での各ファンドへの資産配分は、前記の「投資対象ファンドへの資産配分」をご覧ください。なお、当ファンドは3月27日に第45期決算を迎えました。分配金は基準価額の水準等を考慮し1万口当たり50円とさせていただきます。

各運用会社のファンドの運用経過等につきましては以下の各社のコメントをご参照ください。

[各運用会社の運用経過と今後の方針]～各社からのコメントを原則としてそのまま掲載しています。

三菱UFJ国際投信：三菱UFJ国際 日本株・スター・ファンド（適格機関投資家用）

今月の基準価額は上昇となり、ベンチマークを上回りました。「第一三共」や「三井物産」などの銘柄がプラスに寄与しました。マイナスに影響した銘柄は「ビジョナル」や「ネクステージ」などです。今月も引き続き、業界内での競争力、株価水準、業界環境などを考慮し、銘柄選別や比率調整を行いました。売却銘柄は、「富士フィルムホールディングス」などです。買付銘柄は、「AGC」などです。

競争力があり、中長期的な成長期待が持てる企業を中心に、銘柄選別を行う方針です。

当面の株式市況は、日米の金融政策や景況感に左右される神経質な展開を想定します。米国のインフレ動向とそれに対応した金融政策の方向性については、金融市場に与える影響が大きいため慎重に動向を見極める必要があると考えているものの、今後インフレの頭打ち傾向や景況感の悪化懸念などを背景に、利上げの打ち止めが視野に入ってくるとされることは株式市況にとっては好材料と考えます。また、国内に関しては、日銀新総裁による金融政策の動向を慎重に見極める必要がある一方、コロナ禍からの正常化による消費・投資の回復などが国内企業業績への好材料となると考えます。欧米を中心とした金融不安が完全には払しょくされないことも背景に、引き続き株式市況の変動性が高い展開が続くと想定しますが、こうした局面においては本来の企業価値から大きく乖離したと思われる株価形成がなされることも多く、徹底したリサーチにより大きな超過収益をもたらす企業を発掘する有望な機会であると捉えています。

個別銘柄の選別においては、引き続き競争力の有無、収益力向上への取り組みなどを重視しています。足下の状況を吟味しつつ、マネジメント力、バリュエーション、中長期的な成長や収益力改善のためにどのような施策に取り組んでいるのかなどを精査し、競争力があり、中長期的な成長期待が持てる企業を中心に銘柄選別を行っていく方針です。

（2023年3月31日 三菱UFJ国際投信）

・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

■資料で使用する指数について

- ・参考指数は前営業日の数値を用いています。
- ・東証株価指数（TOPIX）、TOPIX（東証株価指数）およびTOPIX（東証株価指数）配当込みとは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。
- ・RUSSELL/NOMURA Small Capインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Small Capインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、時価総額下位約15%の銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

月次レポート

追加型投信／国内／株式

2023年
03月31日現在

[各運用会社の運用経過と今後の方針]～各社からのコメントを原則としてそのまま掲載しています。

フィデリティ投信：フィデリティ・日本株ファンド（適格機関投資家用）

【運用状況】

当月の東京株式市場は、米銀の破綻を発端とした金融不安から中旬に急落する場面もありましたが、月末にかけては値を戻し、月間では3ヵ月連続の上昇となりました。

市場予想を上回る経済指標や全国人民代表大会の開催を背景とした中国景気の回復期待のほか、円安が支援材料となり、上旬の株価は大きく上昇しました。その後は米銀の相次ぐ経営破綻に端を発した金融不安が欧州にも飛び火し、世界的にリスク回避の売りが広がる中、株価は急落を余儀なくされました。ただし経営不安が高まったスイス金融大手のクレディ・スイス・グループについて同最大手のUBSが買収することで合意したほか、金融システム不安の防止に向けた金融当局の対策などが支えとなり、株価は徐々に落ち着きを取り戻しました。下旬は欧米の金融不安が後退する中で、3月期決算企業の配当取りなどを意識した買いが入ったほか、上場企業に対して資本コストや株価を意識した経営をするよう東証が要請したことを好感する動きなどから急速に下値を切り上げ、日経平均株価は28,000円台を回復して月を終えました。

当月は、業種配分、銘柄選択ともにプラス寄与し、全体でベンチマークを上回る結果となりました。業種配分においては、米銀の相次ぐ経営破綻に端を発した金融不安によりリスク回避の売りが広がった銀行業のアンダーウェイトのほか、電気機器のオーバーウェイトなどがプラス寄与となりました。個別銘柄選択においては、2023年1月期は大幅増益ながら市場予想並みの決算であったが、モーターコア需要の急拡大を背景に、中期収益目標や設備投資計画が引き上げられたことが好感され株価が急騰した三井ハイテックのオーバーウェイトのほか、大幅増収増益となった2022年度第3四半期決算が前月に続き好感されたほか、長期金利の低下がグロース株としての当社株に追い風となった理研計器のオーバーウェイトなどがプラスに寄与しました。

月間の騰落率は、東証株価指数(TOPIX)が0.5%の上昇、日経平均株価は2.2%の上昇でした。

【今後の見通し】

米連邦準備制度理事会(FRB)による急速な利上げの結果、米銀の破綻に端を発した金融不安が台頭したことで、米国のインフレや金融政策の先行き不透明感が強まり、市場の変動率が上昇しています。金融不安の広がりによって世界的な景気後退やそれに伴う株式市場の下振れリスクが一段と警戒されますが、日本株は経済活動が再開途上にあること、また割安なバリュエーションが下支えになることから、相対的に底堅い展開が想定されます。ファンドでは、短期的な相場の変動や物色の変化を越えた長期的な展望に立って、業界の勝ち組企業に投資していく方針です。独自の製品力やビジネスモデルなどを背景とした高い競争力を備え、不透明な外部環境の中でも持続的な収益成長が見込まれる企業を高く評価しています。

【運用方針】

当ファンドの銘柄選択基準は以下のとおりです。

- ・成長市場において、競争優位性を保持している企業
- ・フリー・キャッシュ・フローが潤沢である、あるいは改善している企業
- ・経営者が株主利益の拡大に注力している企業
- ・長期的な収益成長性と資産時価に比べてバリュエーションに相対的な魅力がある企業

(2023年3月31日 フィデリティ投信 ファンドマネジャー：古田拓也)

・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

月次レポート

追加型投信／国内／株式

2023年
03月31日現在

[各運用会社の運用経過と今後の方針]～各社からのコメントを原則としてそのまま掲載しています。

JPモルガン・アセット・マネジメント：GIMザ・ジャパン（適格機関投資家用）

【運用状況】

当ファンドの基準価額（税引前分配金再投資）は前月末比で下落し、ベンチマークを下回りました。

個別銘柄においては、パチンコ・パチスロの遊技機事業やモバイルゲーム事業などを展開するエンターテインメント大手、印刷業者や物流ネットワークの非稼働時間を活用したマッチングプラットフォームを展開するネット企業、半導体製造装置機器の他、エネルギーや環境プラントに関わるポンプ、タービンなどの機器製造とエンジニアリングを手掛けるグローバル企業、電子ペンなどを開発・製造・販売する電子機器メーカー、AI（人工知能）データ解析に基づいたマーケティング・セールス支援を行うソフトウェア企業などがプラスに寄与しました。一方、国内銀行業務を中核とする大手金融グループ、転職サイトを中核とする人材関連サービス企業、航空、宇宙、防衛、エネルギープラントなどを手掛ける総合重機大手、大手生命保険グループ、国内最大手総合金融グループなどがマイナスに影響しました。

【運用方針】

海外における一連の信用不安は固有の問題に起因する事象と考えられることや、当局が迅速な対応を取ったため、連鎖的な問題に至る可能性は高くないと現時点では認識しています。ただし、短期的には今後の伝播の可能性、長期的には金融規制等への影響に十分留意が必要と考えます。銘柄選択の観点からは、コロナ禍がもたらした経済や社会における構造変化から恩恵を受ける企業や、これまでマイナス影響を受けて低迷していた業績の回復が期待できる企業の見極めが必要であり、企業業績の構造的な変化と、循環的な回復の双方に目配りすることが重要だと考えます。また、東証が、PBR（株価純資産倍率）が1倍未満の上場企業に改善策を要請したことを受けて、各企業がどのような対応をするのかにも注目しています。投資の視点としては、引き続き中長期的な独自の成長ストーリーを有する銘柄に注目しており、重点的に投資している代表的なテーマは以下の通りです。

- ・IoT（モノのインターネット）の普及によって成長が期待される半導体や電子部品などの分野
- ・ITを活用し既存の業界を変革することで成長が期待できるフィンテック（金融とITの融合）、リアルエステートテック（不動産とITの融合）、HRテック（人材・人事とITの融合）、i-Construction（建設とITの融合）関連の企業
- ・バイオテクノロジー、先進医療、医療機器に対する政策支援や市場拡大の恩恵を受けると期待される企業
- ・明確な競争優位性を確立し、市場シェア拡大により中期的な収益拡大が期待できる消費関連企業
- ・普及拡大が期待される自動車の自動運転技術や電装化関連分野
- ・新興国での需要拡大が見込まれる消費財、医療サービス、社会インフラ関連の企業
- ・通信インフラの拡張、ビッグデータやクラウドコンピューティング化、スマートフォンの普及率の上昇により新たな市場の成長が見込まれるインターネット、IT関連のビジネス分野
- ・社会インフラの老朽化に伴う都市機能の強化や更新需要の恩恵を受けると考えられる建設関連企業
- ・新興国における人件費の上昇やIoTを活用した製造現場での技術革新などが追い風となることが期待される工場自動化（FA）関連企業
- ・グローバルで着実に拡大が見込める「コト消費」の恩恵を受けるコンテンツ・エンターテインメント関連銘柄
- ・脱炭素社会づくりに貢献するクリーンエネルギー、省エネ関連の企業

その他、内外マクロ経済の動向に大きく左右されず、個別の成長ドライバー（駆動力）を有すると判断できる銘柄の新規発掘にも引き続き注力します。

（2023年3月31日 JPモルガン・アセット・マネジメント）

・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

月次レポート

2023年
03月31日現在

追加型投信／国内／株式

[各運用会社の運用経過と今後の方針]～各社からのコメントを原則としてそのまま掲載しています。

三菱UFJ国際投信：三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド(適格機関投資家用)

【運用状況】

今月の当ファンドの基準価額は上昇となり、ベンチマークを上回りました。業種配分では銀行業のアンダーウェイトなどがプラスに寄与した一方で、サービス業のオーバーウェイトなどがマイナスに影響しました。個別銘柄では「アダストリア」、「ライフドリンクカンパニー」、「住友ベークライト」などがプラスに寄与しました。一方、「ビジョナル」、「ネクステージ」、「INTLOOP」などがマイナスに影響しました。一部売却を含む主な売却銘柄は「ダイレクトマーケティングミックス」、「ベйкаレント・コンサルティング」などです。一方、新規買い付けを含む主な買付銘柄は「カチタス」、「グローリー」などです。

当面の株式市況は、日米の金融政策や景況感に左右される神経質な展開を想定します。特に米国のインフレ動向とそれに対応した金融政策の方向性については、金融市場に与える影響が大きいと慎重に動向を見極める必要があると考えています。また、これまで積極的に利上げを継続してきた影響が実体経済にどのように表れてくるのか、といった点にも引き続き注目しています。一方、国内に関しては、コロナ禍からの正常化による消費や投資の回復などが国内企業業績への追い風として期待できると考えます。引き続き不透明感が強い状況が続いていますが、こうした局面においては本来の企業価値から大きく乖離したと思われる株価形成がなされることも多く、徹底したリサーチにより大きな超過収益をもたらす企業を発掘する有望な機会であると捉えています。

日本の小型株市場はいまだ非効率的で、投資家に十分に認知されていない成長企業が多く存在すると考えており、こうした成長企業への投資を継続する方針です。外部環境、内部資源(競争力)、経営戦略、マネジメント、事業リスクといった銘柄選定の視点を改めて確認し、成長企業を発掘し続けることで引き続きパフォーマンスの向上に注力します。

(2023年3月31日 三菱UFJ国際投信)

・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

月次レポート

追加型投信／国内／株式

2023年
03月31日現在

[各運用会社の運用経過と今後の方針]～各社からのコメントを原則としてそのまま掲載しています。

シュロダー日本ファンド(適格機関投資家専用)

【市場概況】

3月は、欧米における金融不安から急落となったものの、金融当局の迅速な対応により月末にかけては金融不安が和らいだことから買い戻され、日本株は続伸しました。月の前半は、円安の動きを受けて堅調推移となりましたが、10日(現地時間)に米シリコンバレー銀行が経営破綻したことで市場は急変し世界的な株安の展開となりました。その後も米シグネチャー・バンクの破綻など金融不安が広がり、金融株を中心に大きく売られる動きとなりました。後半に入ると、米連邦準備制度理事会(FRB)によるバンク・ターム・ファンディング・プログラム(BTFP)やイエレン米財務長官が破綻銀行以外でも預金全額保護の用意があるとの考えを示したことで、徐々に市場の動揺が沈静化する展開となりました。欧州においても、株価が急落していたクレディ・スイスをUBSが買収すると報じられ、月末にかけては買戻しが優勢となり、円安傾向となったことも相場をサポートしました。

【運用概況】

オーバーウェイトとしているバリュー株がアンダーパフォームしたこと、特にその中でも生命保険会社を中心とした金融株の下落が大きかったことがマイナス影響となりました。

個別銘柄では上村工業や伊藤忠商事の株価上昇がプラス寄与となった反面、T&Dホールディングス、ふくおかフィナンシャルグループなどの金融株に加えて、国内フォークリフト用エンジン認証不正問題で急落した豊田自動織機などがマイナスに影響しました。

【今後の運用方針】

当ファンドでは個別銘柄に対する調査に基づく中長期の業績見通しや株価の割安度などを重視した銘柄選択を行い、長期的なリターンを最大化することを意識した運用を行っています。基本戦略は成長性と割安さを兼ね備えた銘柄の発掘と長期保有です。

長期の成長性については、定量的なデータに加えて事業モデルの堅牢性や経営者の哲学など定性的な要素を加味して考察を加えます。また、企業の成長を長い時間軸で捉えるためには、過去に辿ってきた道筋を遡って検証することも重要です。そうした過程の中から企業の本質的な強みや弱みが浮き彫りになってくることがあります。

割安度については収益予測に基づいた株価収益率(PER)を軸とした上で、様々な評価尺度や手法を参照し、多面的に判断するよう心掛けています。

また、市場平均を上回る成績を上げるためには、ポートフォリオ構築や銘柄選択、売買タイミングなどに関して、市場で支配的な考え方から距離を置き、独自性を追求することも肝要だと考えます。

日銀新体制による異次元金融緩和の修正、とりわけ副作用の大きいイールドカーブコントロールについては早晚見直しが必要になるとの見方が台頭し、昨年末以降は国内長期金利には上昇圧力がかかっていました。欧米での金融不安の間接的な影響からか、一時的にせよ日本10年国債利回りが再び0.25%を下回ったことには意外感がありました。漠然とした金融不安も根強く、金融株が全般的に大きく値下がりしましたが、突発的なニュースフローに端を発する混乱の中、株価形成が非効率になっている可能性のあるケースが散見されるため、投資機会を捉えていきたいと考えています。

(2023年3月31日 シュロダー・インベストメント・マネジメント)

・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

追加型投信／国内／株式

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、日本株運用で実績のある運用会社が運用を行う複数のファンドへ投資を行うことにより、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。

■ファンドの特色

特色1 日本株運用で実績のある運用会社を選定

・日本株運用で実績のある運用会社のファンドマネージャーが、それぞれ独自の運用スタイルで運用することで、ファンド全体のパフォーマンス向上を図ります。

特色2 1つのファンドで複数のファンドへの投資が可能

・各運用会社のファンドをパッケージ化した「ファンド・オブ・ファンズ」です。資産形成の一助として、ワン・パッケージで複数のファンドに投資できる利便性を提供します。

＜投資対象ファンド＞

三菱UFJ国際 日本株・スター・ファンド(適格機関投資家用)

フィデリティ・日本株ファンド(適格機関投資家用)

キャピタル・インターナショナル日本株式ファンド(適格機関投資家用)*

GIMザ・ジャパン(適格機関投資家用)

三菱UFJ国際 日本・小型株・ファンド(適格機関投資家用)

シュローダー日本ファンド(適格機関投資家専用)

* 組入投資信託証券の入れ替えに伴い、2023年1月31日に投資対象から削除しました。

特色3 各運用会社のファンドは日本企業の株式に投資

・各社独自の調査・分析により、成長が期待できる日本企業の株式に投資します。

■分配方針

・年2回の決算時(3・9月の各27日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。

・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。

・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
信用 リスク	組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性 リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

■その他の留意点

・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。

・ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

追加型投信／国内／株式

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位(ただし、1万口を上回らないものとします。)／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までには販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、1顧客1日25億円を超える換金はできません。 また、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付 の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	無期限(2000年9月28日設定)
繰上償還	受益権の口数が100億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年3・9月の27日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年2回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

追加型投信／国内／株式

手続・手数料等

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限3.3%(税抜 3%)**(販売会社が定めます)
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.3%**をかけた額

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	当該ファンド	日々の純資産総額に対して、 年率1.045%(税抜 年率0.95%) をかけた額
	投資対象とする 投資信託証券	投資対象ファンドの純資産総額に対して 年率0.759%～0.935%(税込)程度
	実質的な負担	当該ファンドの純資産総額に対して 年率1.804%～1.980%(税込)程度 ※投資対象とする投資信託証券における料率を含めた実質的な信託報酬率(概算値)を算出したものです (2022年12月27日現在)。各投資信託証券への投資比率が変動する可能性や投資信託証券の変更の可能性 があることから、実質的な料率は変動します。したがって事前に固定の料率、上限額等を表示することは できません。
その他の費用・ 手数料	監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・投資対象とする 投資信託証券における諸費用および税金等・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・シュロー ダー日本ファンド(適格機関投資家専用)の換金に伴う信託財産留保額・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についても ファンドが負担します。 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。	

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎決算時または償還時にファンドから支払わ
れます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。
なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を
必ずご確認ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断し
た情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来
の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いた
だいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会:一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufg.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00～17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

ファンド名称: ファンド・オブ・オールスター・ファンズ

商号	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
株式会社池田泉州銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第6号	○		○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
スルガ銀行株式会社	登録金融機関	東海財務局長(登金)第8号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
株式会社三菱UFJ銀行(※)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第33号	○	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

・商号欄に*の表示がある場合は取次販売会社です。・商号欄に(※)の表示がある場合は新規申込のお取扱いを中止しております。